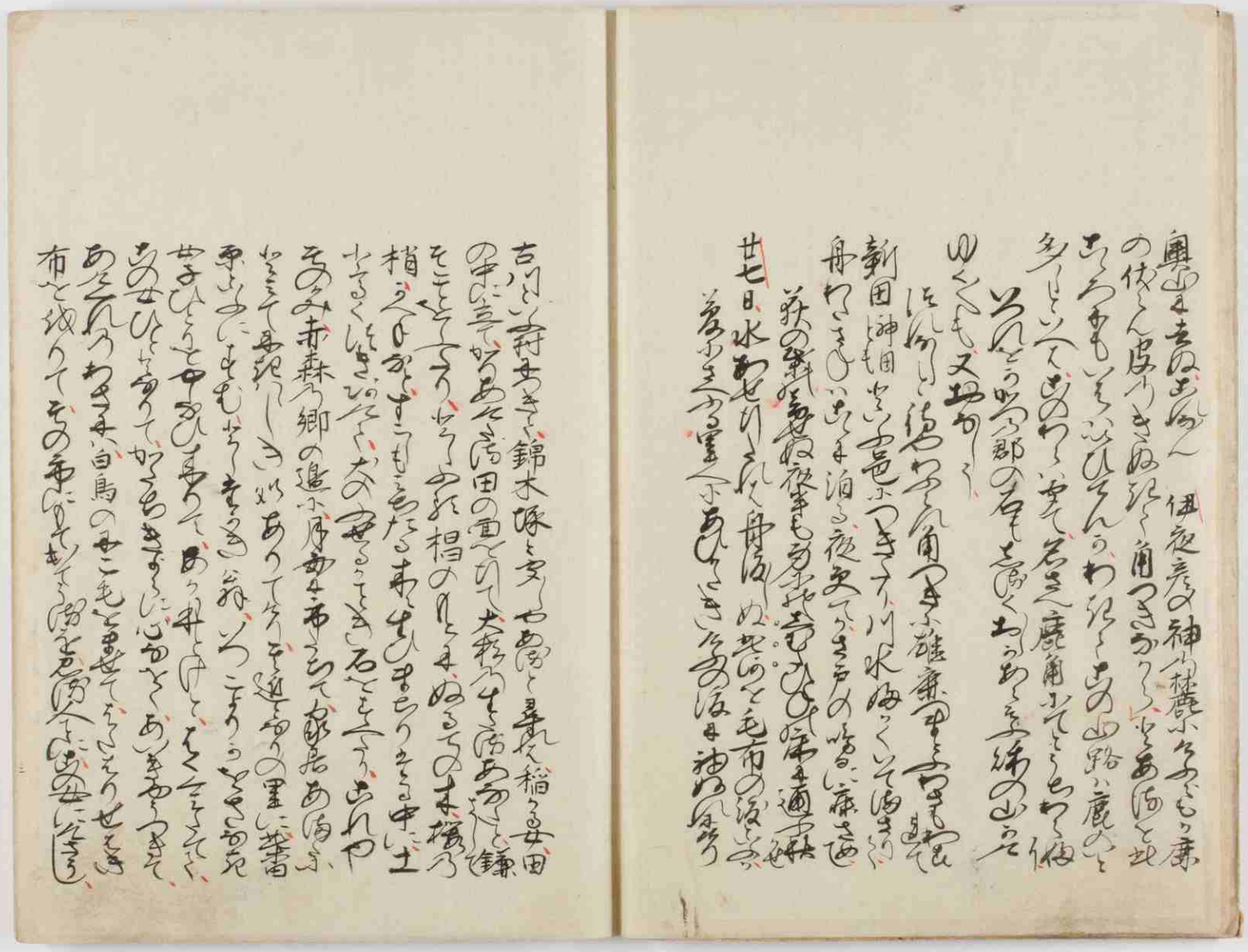
以下　汚れあり　破損あり

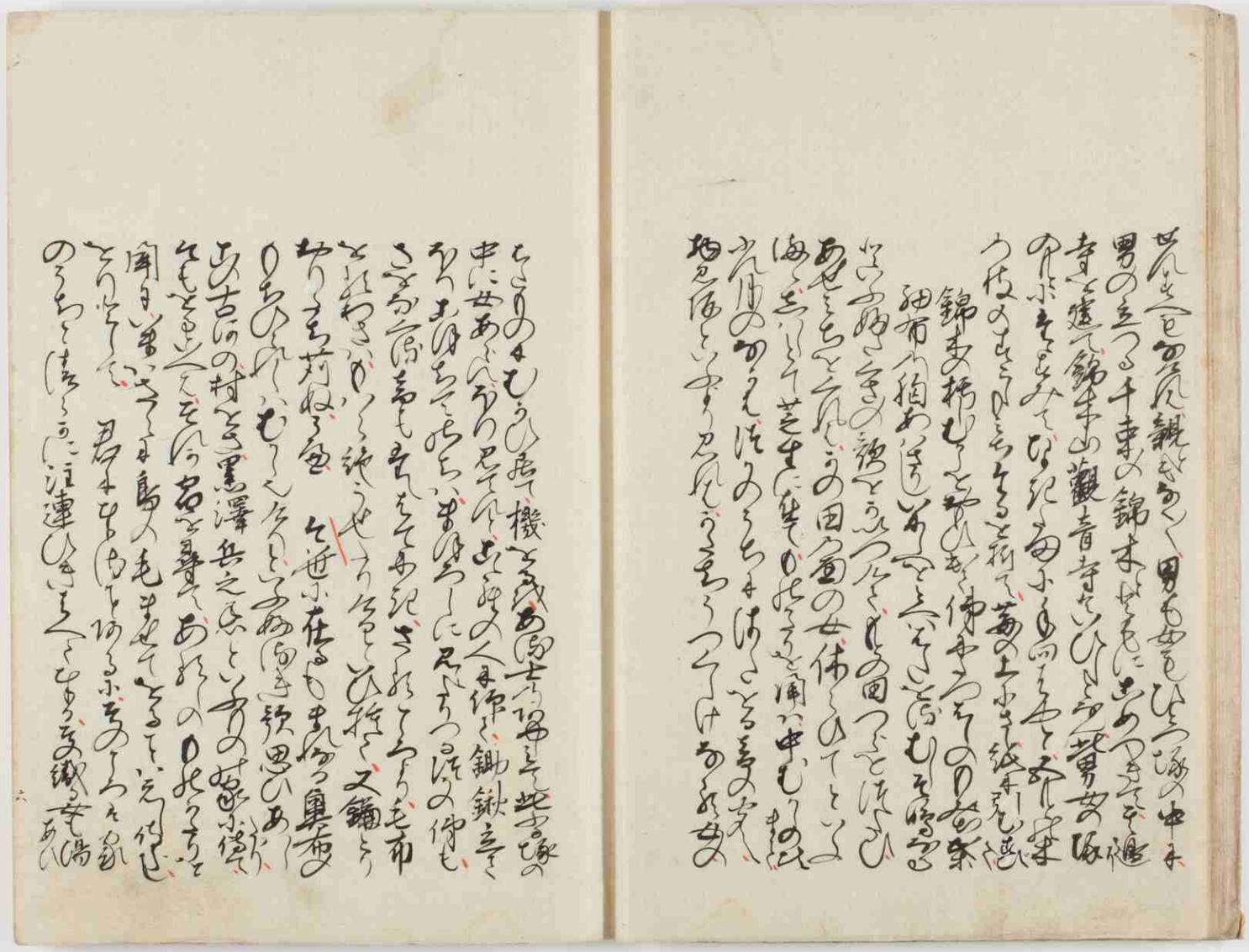
天明五年の秋浜の海を渡りて南陸の鹿角郡より
ありて錦まのむらと尋ひ岩手郡和賀郡をへて
仙臺路よりの江刺郡より片岡色まで出て
こゝにてせめてそこの人のいとまをこひて
三沢をへて名つく

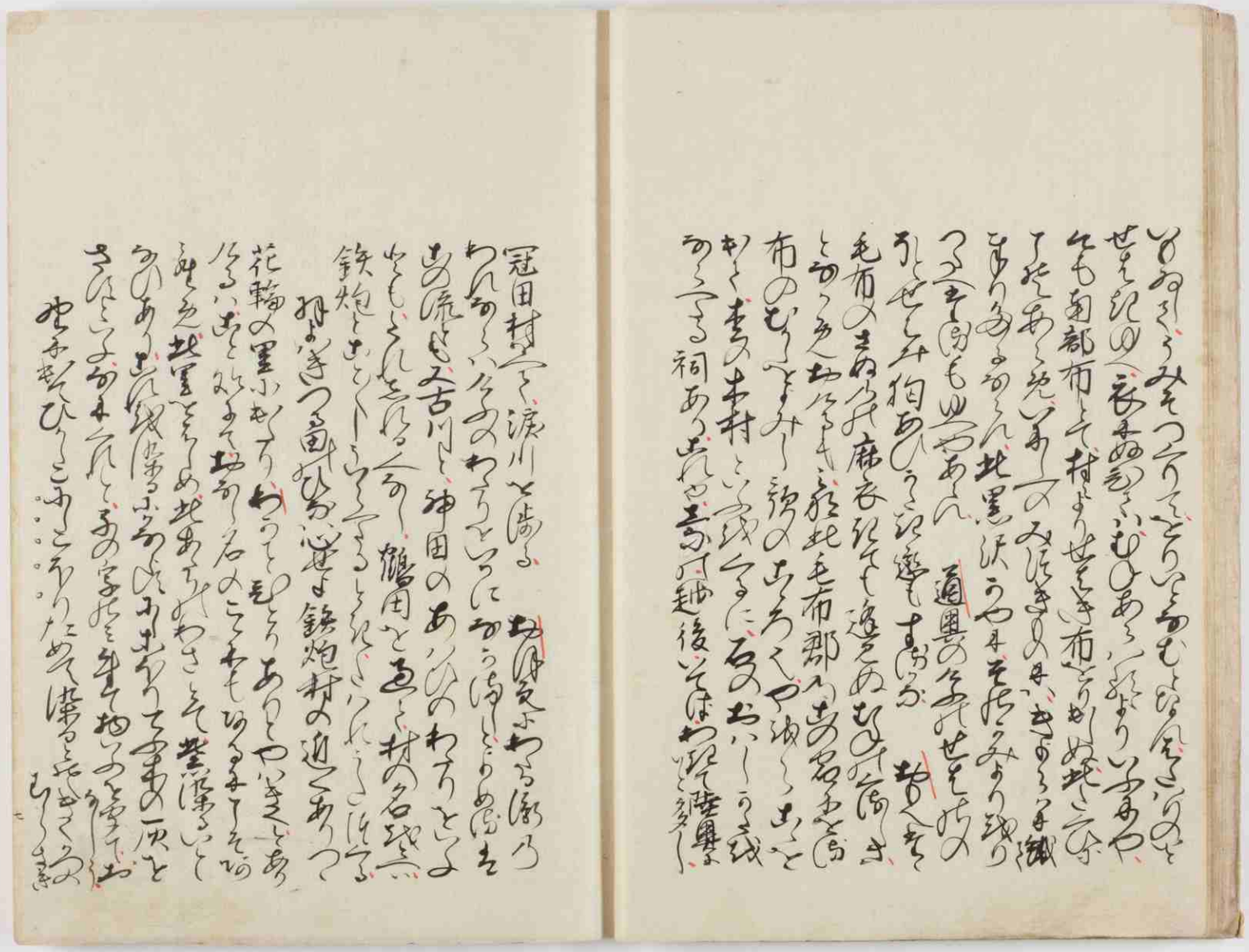


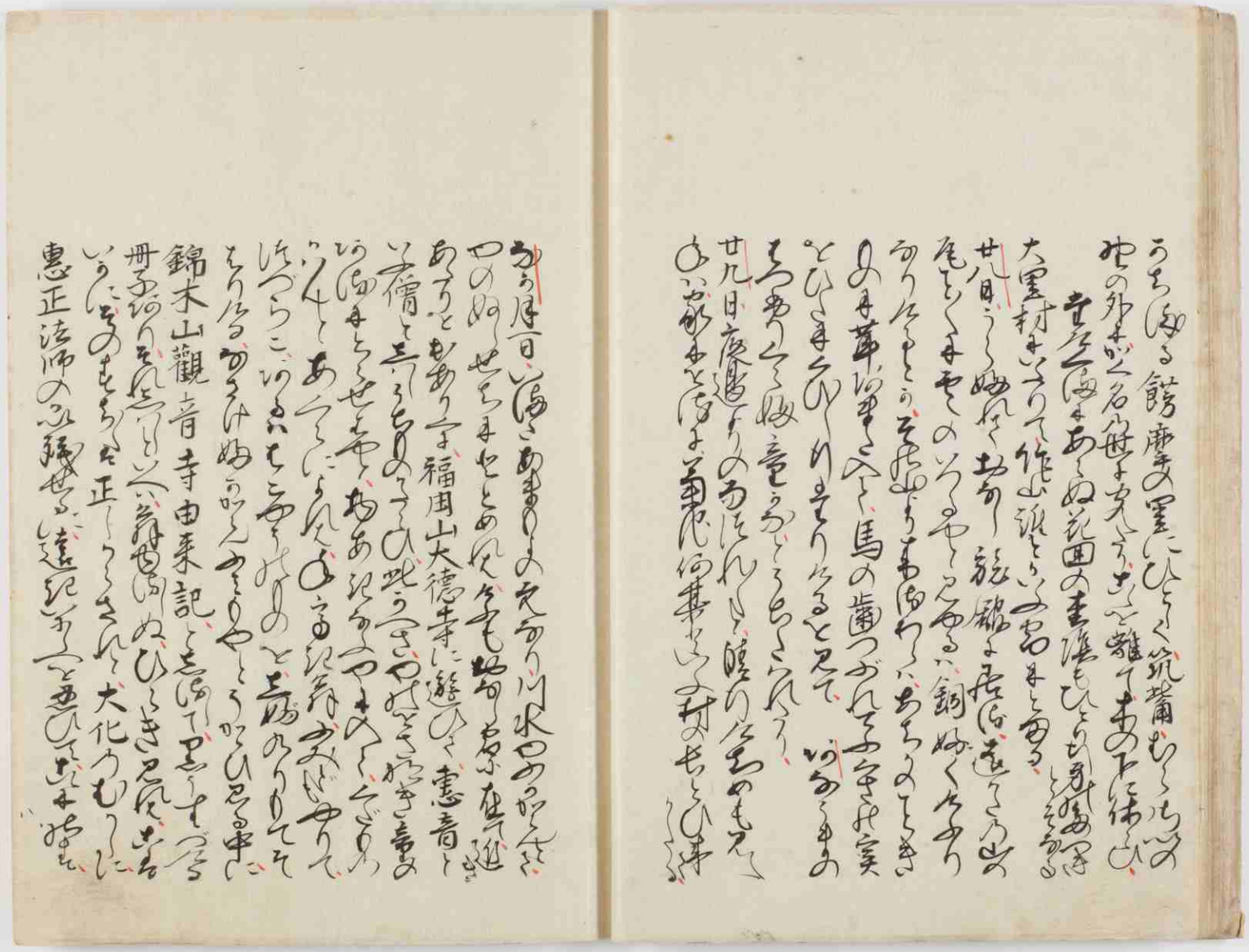
又毛布のめてゝ天とてわれしひとりひとりあるひとりて廣沢の中
に所里女男あるて世をなるわさまゝ楓のまもりきのま
日もみのまもうんつ酸の木勝重木のこうはさうゝ苦木の名ちの
思前まゝ似ゝ名なるが
似て紫さくらの名はく里めこ
ありてもい苦名れとこうつ
一事まあひかりどう木とひて名ゝ仲人まとみて本木
てやあん世まゝ錦木とあのまもちきてたゝく
あ筆とれとうくゝつあるあんむうらまとゝて
いうゝうんひうの京の男ちうぜうまと市野ゝて
あきかつとくとうひゝわう勢ゝ世ゝのゝ千られ女
見そかすき男ゝ地まと夜のまたうへるとゝい
そとゝゝとりてあ仏せうとうり千来とてもあのま
ひとうめとつとゝもとゝ地あきまうと

毛布あ仏のゝ女ゝあまとかうきまとて
ゝとりゝ夜ゝとゝ通ひそゝ人めそかゝぬうひん
錦木まあゝうひとゝ
ゝりのゝんとゝ名ゝ
あゝとして立ゝ所ゝ
いうもゝ給あんゝ男とゝもむこうとゝもゝさゝ錦木
ゝ所男とゝとゝあそゝみゝゝんとゝ飛ゝ前の心ゝ
日毎ゝ立ゝ所ゝとつの錦木ゝその中ゝ打ぬ地ゝうとゝ
今ゝ毛布拘あゝきひとゝ世ゝとひぬ世ゝ
賀ゝ男ゝもゝえあゝゝ拘ゝまゝひあゝゝきゝ
夜今ゝ別ゝ前ゝ男の夜ゝにゝうとゝとゝひ
移ゝひゝゝ地ゝとりゝゝとゝもとゝ

酸木
苔木
うさぎ
かき木







此觀世音者人皇世六代皇極天皇之
御願所當國之大守敏達天皇第五之
宮瑞籬皇子之御建立也其源者人皇拾
三代成務天皇之御宇奥州黎民動干戈
度度也其来由者地理不分明而民爭
奪境小者無勝大者結黨而鬪爭故
置郡司正邪正北奥州五郡者大臣貴
命二十六代之苗裔狹名大夫同帝三
歳御下向當國置吏長分地理之上
下定町數限堺令開塘溝教農耕之道
自是農夫等悦伏而無爭堺民人伏
帝褒美其勲巧改豊岳里狹名之以

狹字稱号狹郡狹名大夫居官三拾七
歳仲哀天皇三年於狹郡豊岳之邑甍
狹名大夫八代之後流政子女得工布絹或
時織始毛布民間之兒女習之而色色雜
鳥毛織毛布其頃同郡草城里長之子
某戀某政子女而立錦木三歳既及
千束政子女初程有懇人恐父心童月而
見彼容皃吾故不似初面瘦恨聲入
身中如為砭身在身者古河里心
者在草城里而業郎荒父大海云先
祖文石不幸而落民間家貧而雖在民
間自狹名大夫八代家名人知之嫁里子

恥家名先祖不孝之至也制之不許嫁
長子自是伏病床斷鍼藥飲食推
古天皇七歲七月十日遂早世政子女哭
泣無止心胸大痛暈到而同月十五日
誘引無常風命葉忽落大海悲嘆
餘乞長子之亡嚴同穴政子女而以千束
之錦木共埋之故号錦木塚其後敏達
帝之皇子第五之宮者臣守屋之女
岩手姫御子也故除皇子之列奉成
庶人配流奥州當國之部吏猪人依藉
我馬子下智為奉弑北奥之部吏有
麻呂竊奉迎五之宮造奉恭敬猪人

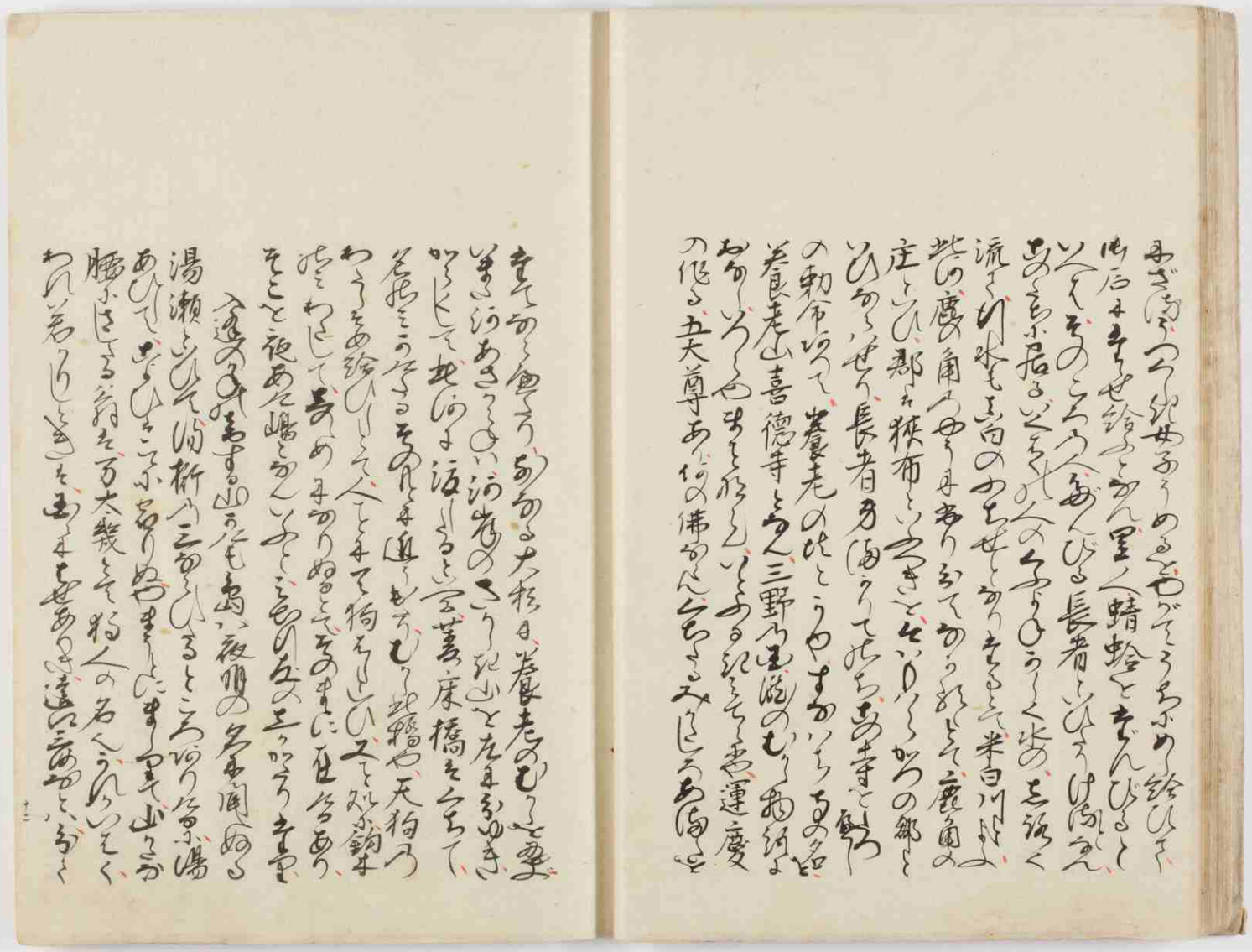
皇極天皇元年ハ
紀明天皇世七年ニ
アタリテ己丑ニシテ
壬寅ニアラス

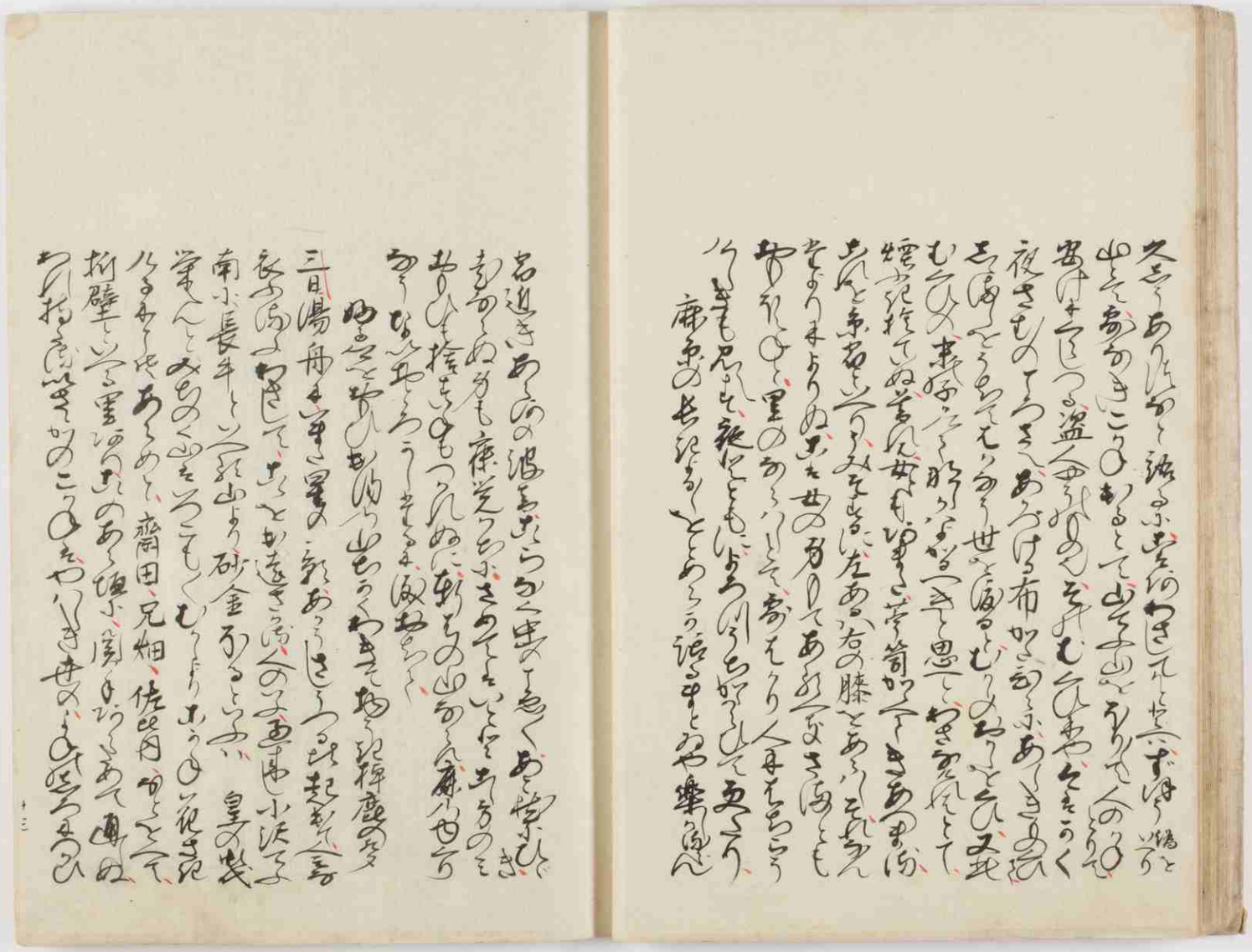
初五郡之官司等來豊岳里敬伏三十
六代皇極天皇元壬寅之歲五之宮七拾
三歲配流有勅免而上京在配所五十二
年此時當國之産物毛布細布三百反
砂金百兩獻之自是為貢物帝曰大
職官鎌子朕伯父七人叔母十人幸五之
宮殘命父大兄皇子為再會之念御落
涙甚其時鎌子毛布細布由來達叡聞
押御感涙流狹名者在往昔　又云
勲巧臣且而名也命哉至政子女家斷絶
堪痛哭草創一字之堂尉亡魂賜正觀
音一軀御長一尺八寸求法之僧善信自

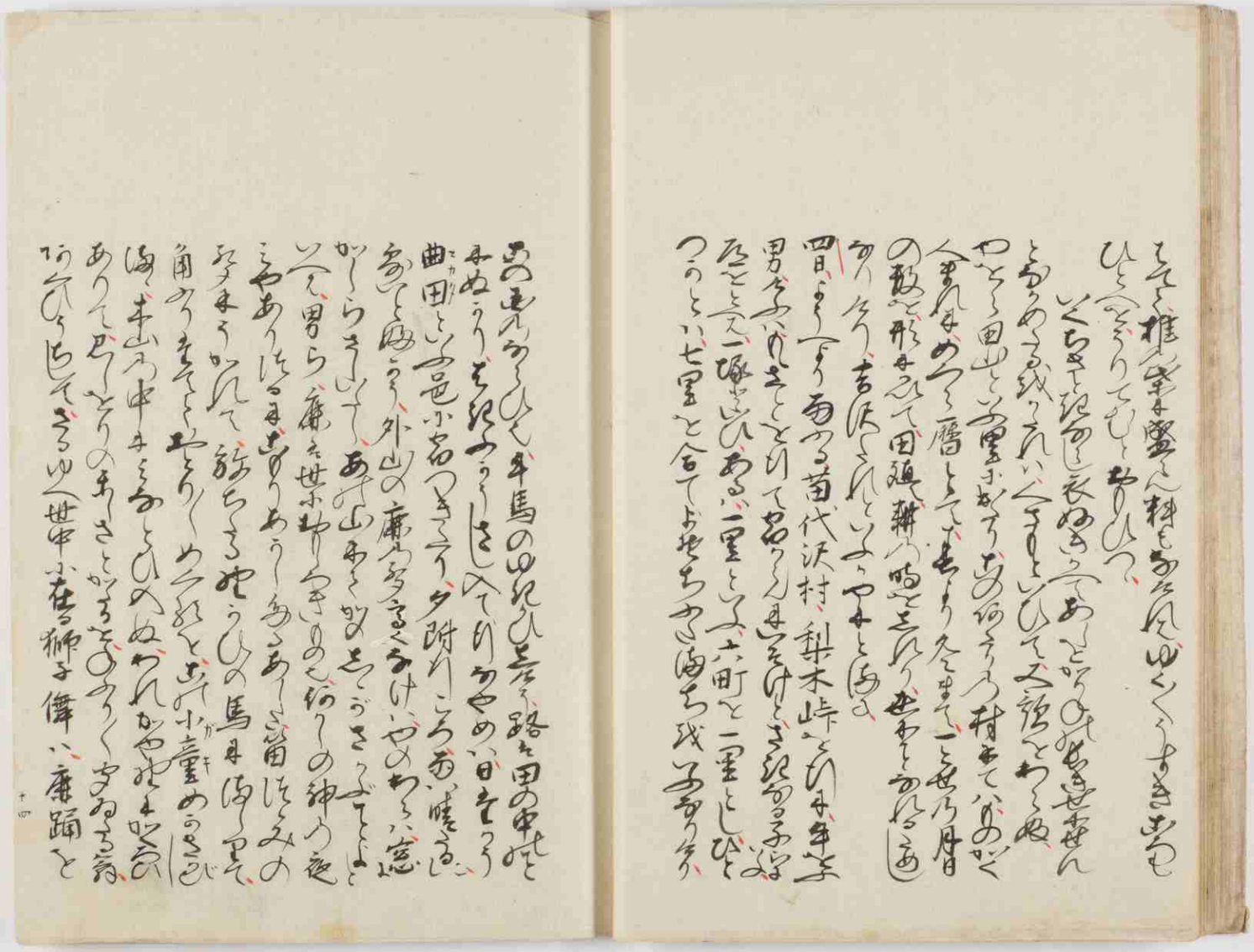
百濟國持来木像誠難有勅願也同
四年五之宮造立一寺所賜之安置觀
世音稱号錦木山觀音寺孝德天皇
大化乙巳歳八月道師惠正法師敬白
[illegible]
千[illegible]
二日[illegible]
[illegible]

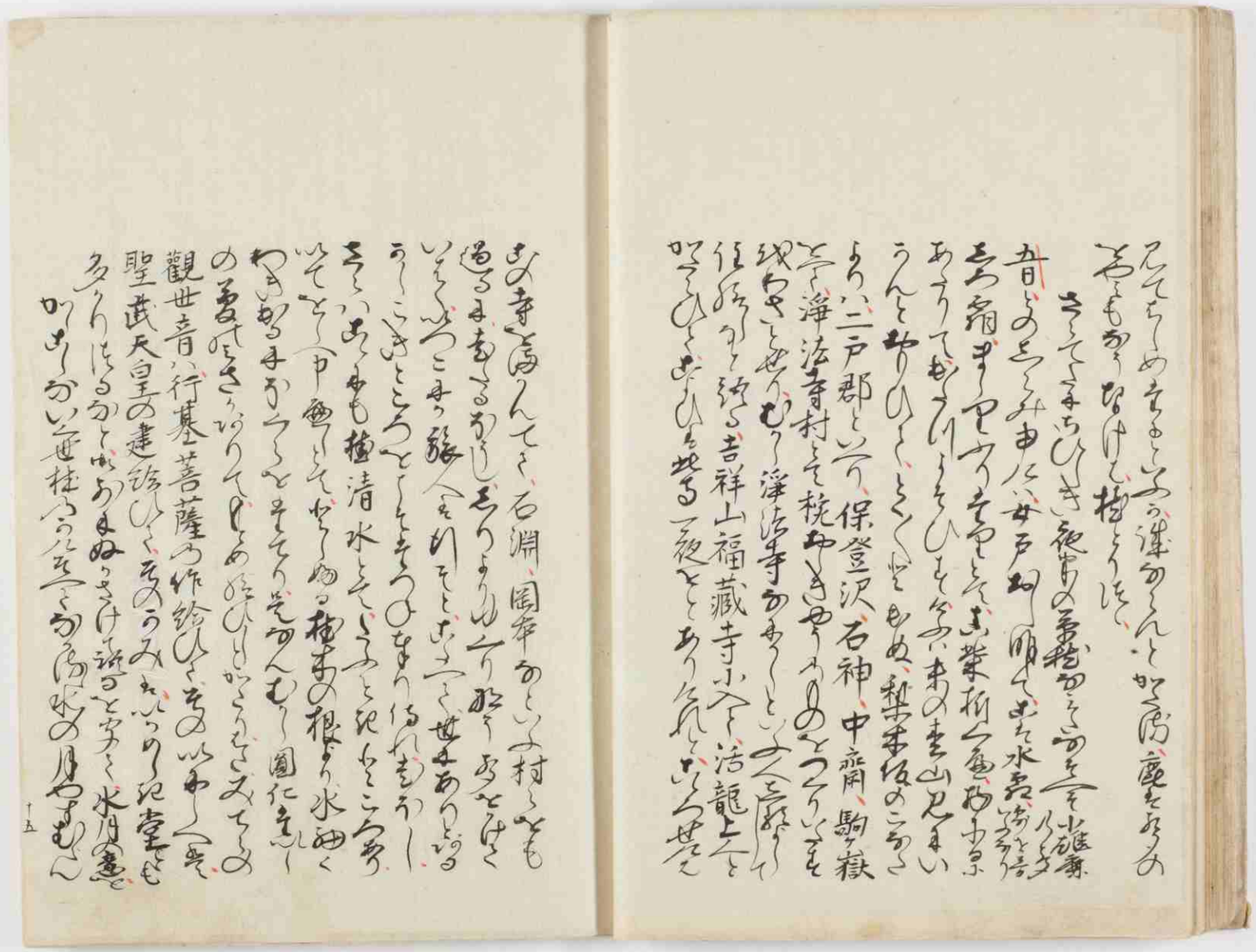
昨日来今日の帯[illegible]
[illegible]小豆沢村[illegible]
東の堂[illegible]

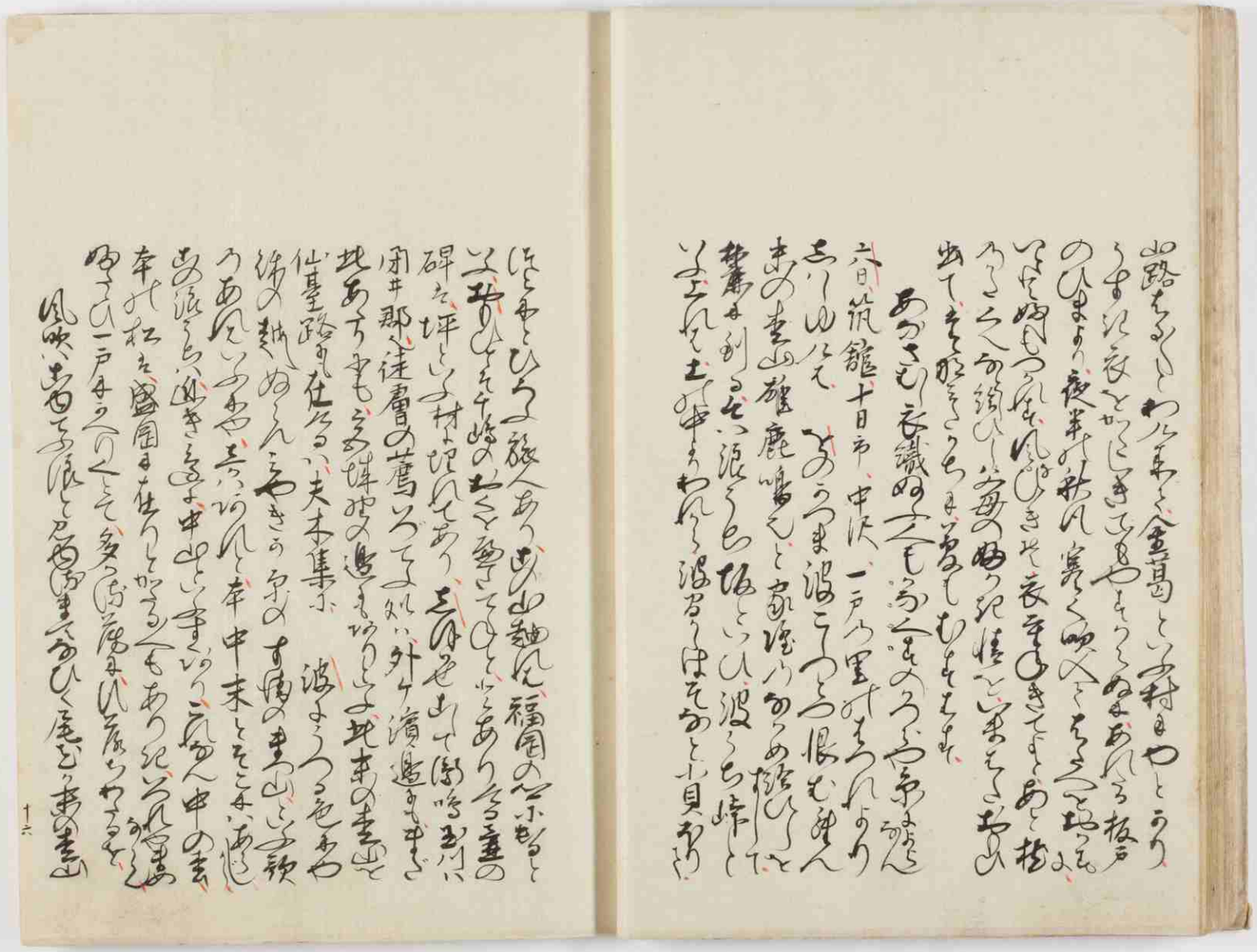
平間田本[illegible]処小男女[illegible]耕[illegible]
出て[illegible]鋤[illegible]
[illegible]秋津[illegible]
[illegible]
[illegible]











六日筑紫十日市、中沢、一戸の里ゆきつれよりあり
ゆきの里の雄鹿鳴くと哀れなる
鹿の音聞くに涙こぼるる
波よりつる色あり
仙基路を往るに夫木集ホ　波よりつる色あり
仏の教めぬんとあきの京の
うあれしつあり　芦中中末とそこよ
あ波とも　中のとこ
年れ和を盛屋をたりて
風吹き西の方一戸ゆのくて

栖穴村、白子坂、荷佐宮口、小沢、[illegible]

[illegible]

[illegible]

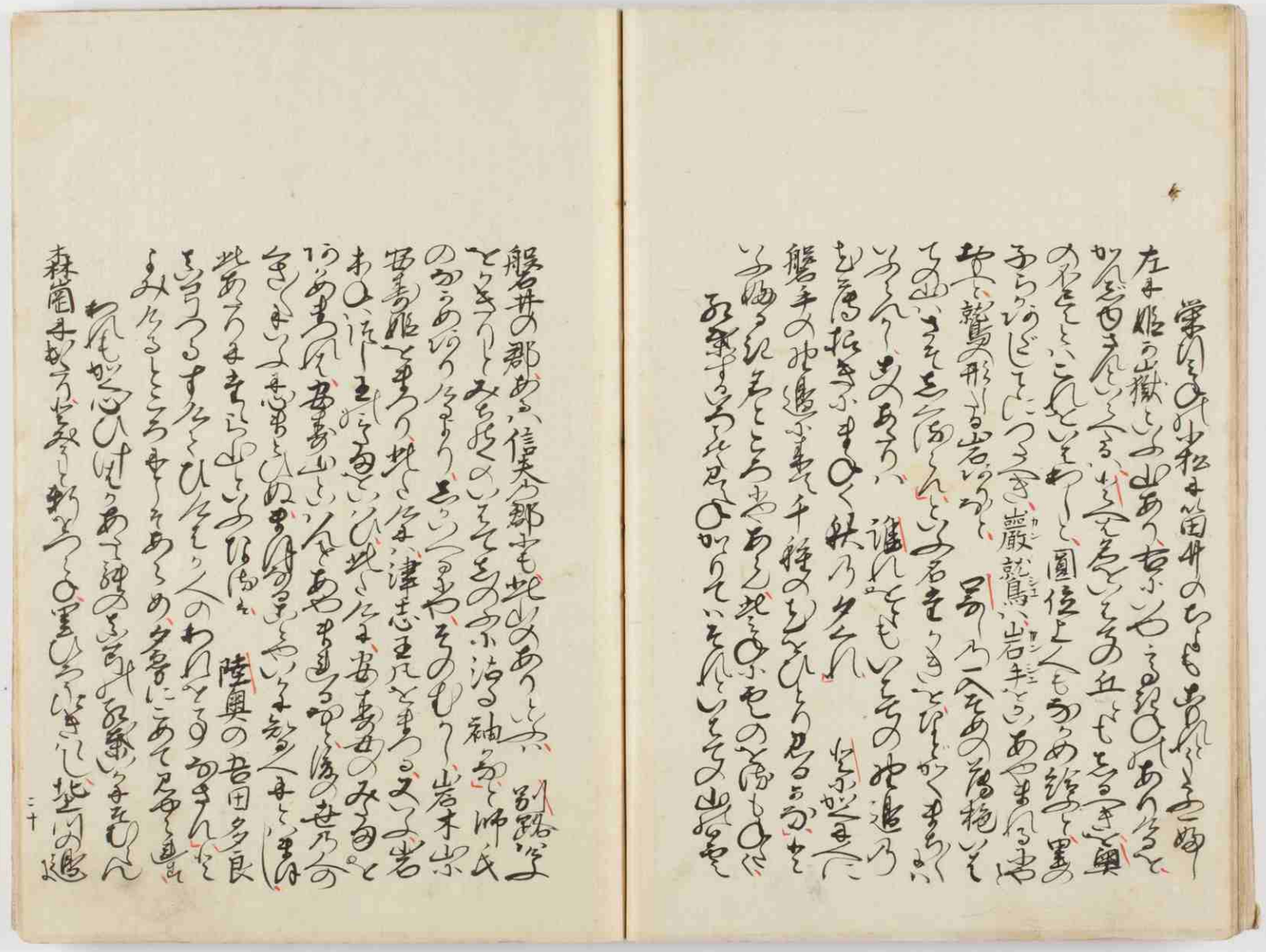
高屋鋪　笹目子　小繋　日行中山のうまやあり

錦着て海ゆるとやらん緑人のわらるる歌のかうの書山
摺糠　馬羽松　馬羽沢　これより頼義の切り馬
料の糠白子　これより中の森　これより捨ての名ある
のん御堂　御堂と　村　村　村

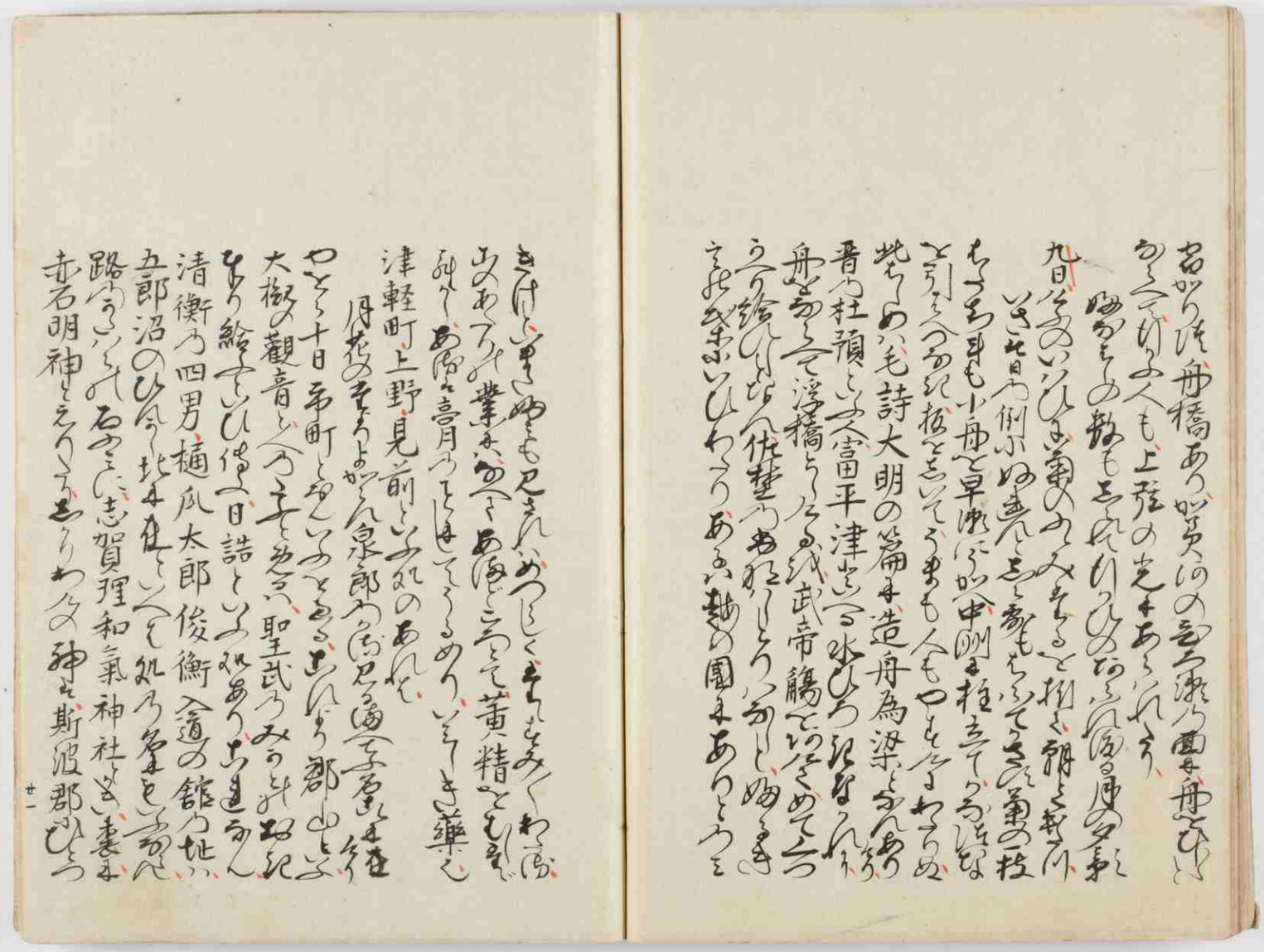
[illegible]

[illegible]

金勢大明神とゝ[illegible]雄元の形
[illegible]盗人[illegible]
[illegible]
[illegible]



常陸の国の小松寺笠井のひろも山[illegible]
左手姫の山嶽とよむ山あり[illegible]
かれ[illegible]
の[illegible]
あらかのじとたにつ[illegible]
[illegible]
[illegible]



津軽町上野見前

十日弟町

大樹の観音

清衡の四男樋爪太郎俊衡

五郎沼

赤石明神

姓氏録云軽
部倭日向建日
向八綱多命之後
雄略天皇御世
獻賀里乃郷仍
賜姓軽部君同
云豊城入彦命
男倭日向建日
向八綱田命
續日本紀云
入彦命子孫
東國八腹朝臣
各田君地賜
命氏

の中に紀ノ川に北西なる神ヶ淵なる又祠と北の
方に渡瀬ひろがりに出でて立てる北の方底に龍神
出る石あり　とりて神といまつりしとかんなり
なりしとかく語る　櫻町といふ村あり
西の吾妻峯といふ山に鹿を志和乃　稲荷といふ神あり
鹿猟分の社にて地神の瑞籬と申なり
あるいは志和乃　切られ　と言ふ
あり　神や　倭日向建日向八綱田命なる
八束穂ふ秋の田の実を鹿の神の
地にまきて　と言ふなり

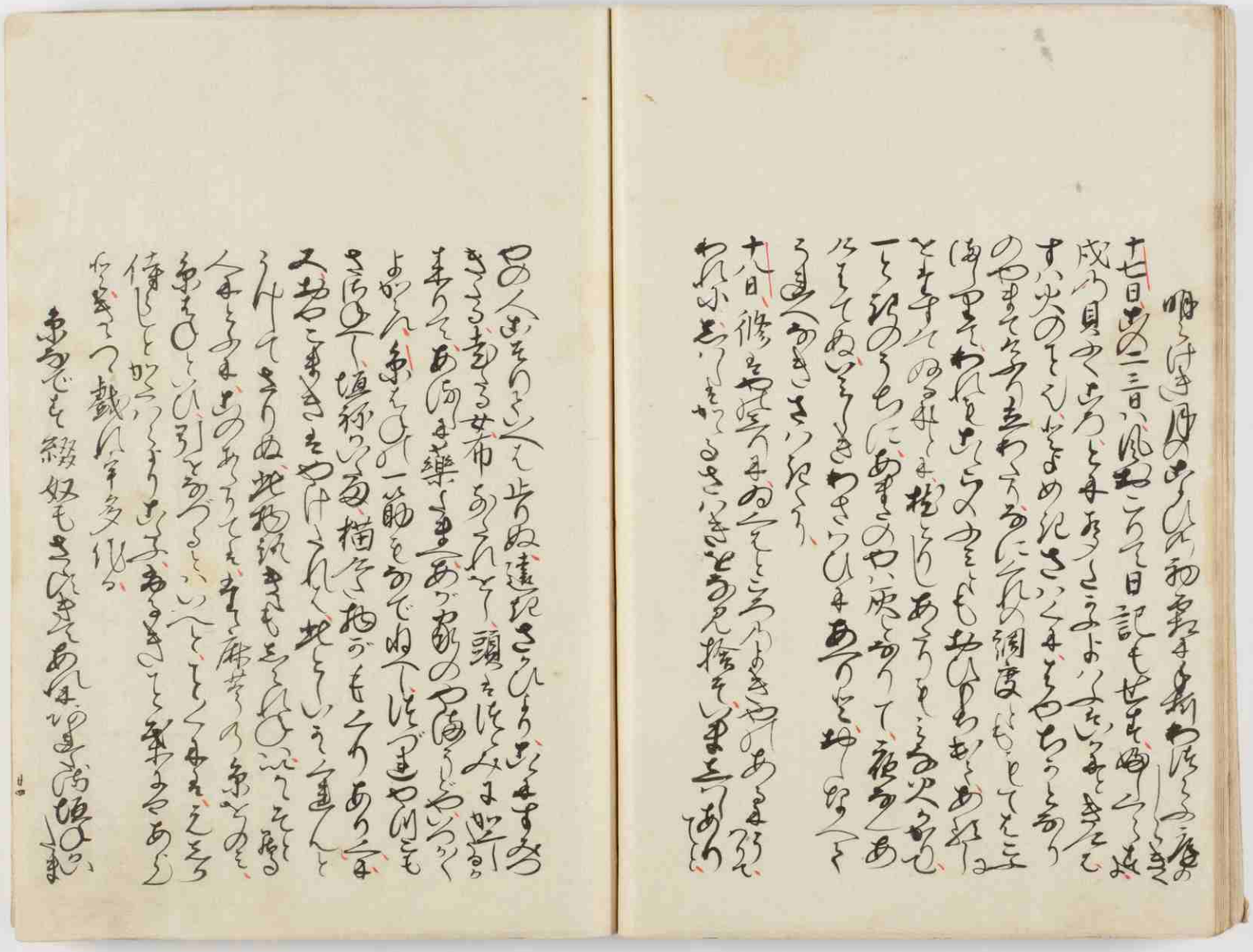
十二

石鳥谷といふ里を過ぎて
十日大風のとき
藤原朝臣盛方の
給ひ　花巻といふ
中ほどに
ありてらりと
ひ君とまで
朝ぬ日市の
稼人多くあり

八幡宮部と
ありもやあり
の花多く
伊藤彼
夕ぬ
五瀬の國

穩正唯、岩波良清と競みたつこしもるくこ
十日、今も人々とともに小まりてあるに藤の見ひ
十一日、出の人々ちとかこ[illegible]
[illegible]
ひきて北日斗をそ[illegible]
十三日、今[illegible]
山面ひ[illegible]正唯[illegible]
めの遊[illegible]の例を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

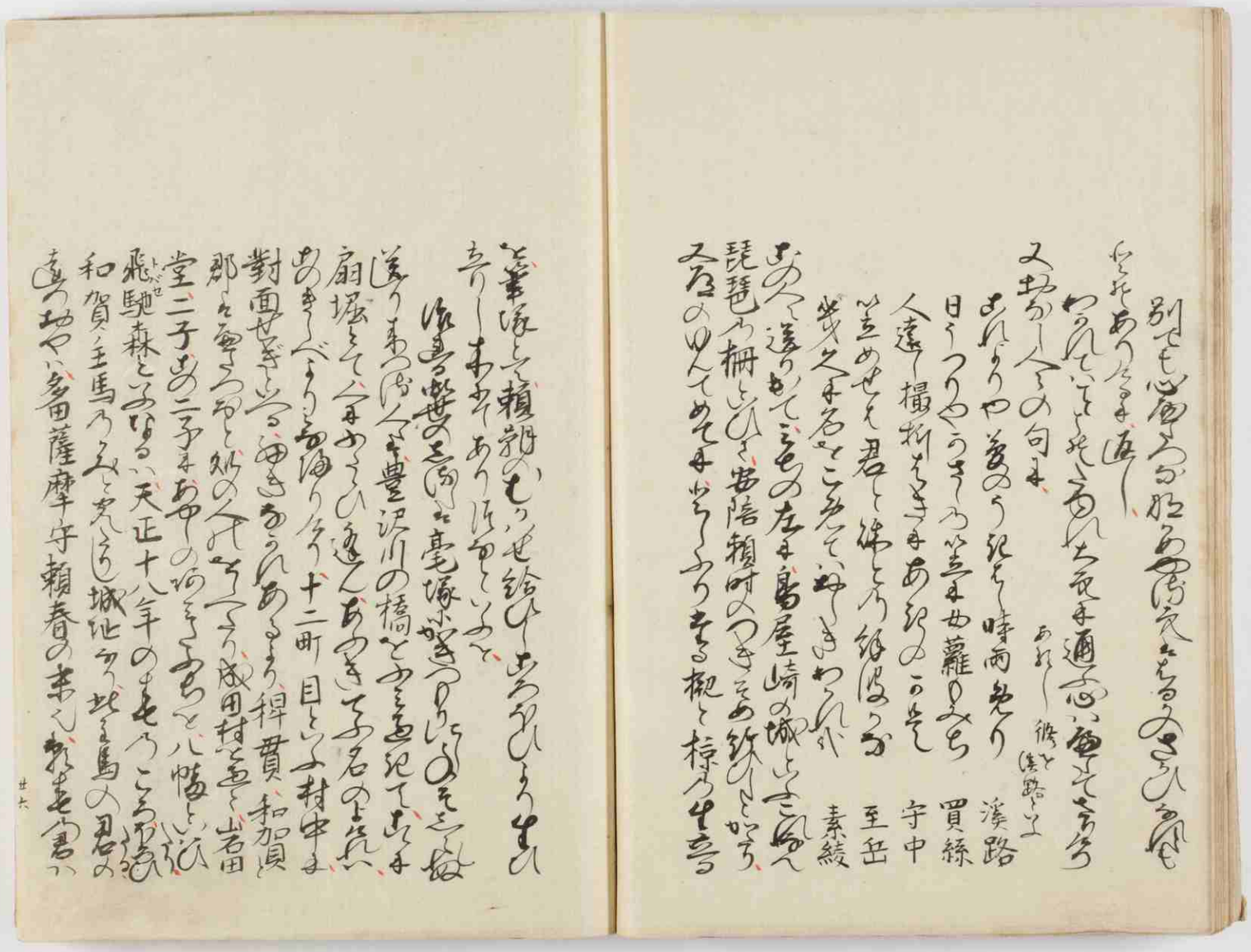
いそ[illegible]句
[illegible]錦[illegible]
あり[illegible]
つ[illegible]
け早地山峯[illegible]瀬織津比咩[illegible]
ぬ[illegible]
日本武[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]日朝曇ぬ村谷守中[illegible]人情[illegible]
[illegible]夜寒の[illegible]
[illegible]
[illegible]時雨[illegible]
[illegible]

廿七日[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]



廿六

伊藤八郎祐親の女満幸前なるめるを祐親入道
都より海まで此ちこと[illegible]
海[illegible]
[illegible]
[illegible]
足[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
齋藤五齋藤六八郎太郎祐信等なるを
[illegible]君と[illegible]
[illegible]

[illegible]君信寒の國善光寺に[illegible]
[illegible]頼朝公
[illegible]
二三万石のとりやはんとうの海ホみのく
[illegible]
の海ひしの八郎[illegible]齋藤五齋藤六
[illegible]
[illegible]
[illegible]

廿八日あめ　まいさかいなく阿部の山居館のあと
尼ヶ子ヶ城ありしなる加志といふれは黒澤尻四郎政住の
あるしなりと　偖北上の東てゝ國見山のいとゝく
名ゝれり　西ゝ子名いとゝ　神武の帝
八十梟ゝ國見丘小鋸給ふ　きうれの岳
の大石まやいとゝ　ひりとつる　ゝ
給ひしとゝ　あり　ゝ
む　あり　ゝ
西見をすれば　ゝ　黒人のいとゝく　高ゝ
宇ゝの山乃霍公鳥　吾背乃渡　ゝ
又いと　みちのくの乃黒山乃時雨　稲荷の
ゝ　ゝ

熱海を過ぎて西ゝ　和賀郡江刺郡の境
あるゝ　ゝ　白狐　ゝ
ゝ　駒の嶽　ゝ
筋ゝ　ゝ　稲荷乃神のゝ
ゝ　ゝ
水　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]の日三九日とき家とに
いひわきまくす情の九日[illegible]茄子の蔓
のくはるる方[illegible]あいとりかれくつれくひら
やり水を叩けて人の出る冊子もあり今を
[illegible]春日の鹿乃鳴るハいとあるるあり
あれと伝ひなるよ[illegible]とよの南陽十二代小あるる
政行乃君[illegible]乃都[illegible]絵ひく
秋乃[illegible]海乃ひと[illegible]わ[illegible]
[illegible]絵ひ[illegible]
[illegible]叡周[illegible]
[illegible]硯と政乃君[illegible]絵[illegible]

の硯むり本三位中將重衡受戒〜絵ひ[illegible]
法然上人[illegible]
[illegible]信行よたらく[illegible]
硯[illegible]
世[illegible]
廿九代[illegible]
[illegible]重信乃君[illegible]
[illegible]天和三年九月七日[illegible]
[illegible]大樹公乃[illegible]
絵[illegible]
[illegible]
[illegible]
みの毛もうを[illegible]公あきうら

めて絵のあまりうつくしの夜四品十ばかり絵の色音信
の色そのの島の羽色のいとあぬれうつくしきまでゆる
うまの吹て絵のうるかりてありなるとかつしてくろう
家の内家も西の水きのあるとしとかつきの家
三十日今も西の方まだ水きのあるとしとかつきの家
むつ紀のちりもたまはしの内乃云々の手紙より
地の雪のうつす孤の館の西の後藤ゆいひ訪
年とかつまいきたるとの紀乃末つさ孤の柵ゆるかりと
山市山市乃ちたるとの後藤ゆいまろひのまて
やしひさんぐんぎしひまろひのさくしてとも
うつのあの海市と孤の森とてみきたひとうの或
地市ともいひたるの

四月一日晴風黒澤尻とづあるもいぐるの
あるまてとて政任乃しの館あと迫
道乃事りうけるる
冬の事梅と方も時雨の冬をあぬわの油をとへ
ちりうの竜とをちひとりる
今朝そしる事をわうりしき日乃さしを 着山
やをうひていうあるとうをたるる
面あるもとひをる別ぬれて北上のとかのあ
うをしりよりやをみて魅る人し水の遠おのふの
いるるの年の風吹毎男田要山を乃乃風楯村とあ
すもの家の実の実を投之西おおたてん
寺仮と神れし門罪村し南陽を離れ江刺郡小へ

鎮国神社とまうすは　まつらんと　鶴御倉須
なしのあるとき　片国とまうすあるのうきき
ねるとよ　物の霜　世の名の片と　神の清る　秀の
よ